

1人1台端末を効果的に活用した教育活動の実践

～より確かな児童の学びのために～

銚路町立遠矢小学校 学級数11 (校長 遠藤 浩一)

I 実践テーマの趣旨

本校は、令和元年度からプログラミング教育事業の研究実践校として、教科等横断的な教育課程の編成と授業実践を行い、プログラミング教育の充実を図ってきた。令和3年度からは、1人1台端末を効果的に活用した教育活動の推進を目指し、取組を進めてきた。

II 実践の概要

1 校内委員会の設置

○ ICT委員会

ICT委員会では、1人1台端末などのICTを児童が効果的に活用するため、ICTを使用する際のルールや環境整備について検討し、全職員に提示した。

○ プログラミング委員会

プログラミング委員会では、授業におけるICTの効果的な活用及びプログラミング教育の充実を図るため、実践事例について全職員で共有し授業改善を推進した。

2 ICTの効果的な活用の推進に係る取組

○ 情報教育・プログラミング教育の年間指導計画の作成

教科等横断的な視点で児童の情報活用能力を育むため、情報教育・プログラミング教育の年間指導計画を作成した。また、情報活用能力をより具体化し、身に付けさせたい資質・能力を情報活用能力系統表に定め、発達の段階を踏まえた系統性のある計画を作成した。

○ オンライン授業の試行

児童の学びを保障するため、全学年でオンライン授業を試行した。各家庭において、学校から持ち帰った端末を接続し、出席確認を行うとともに、児童一人一人と会話をしながら使用方法について確認した。また、学習支援アプリを併用し、自分の考えを友だちと共有するなどの学習活動を行った。



【オンライン授業の様子】

○ 授業配信の実施

欠席の続いた児童の学びを保障するため、管理職及び教務主任が、学級担任以外の教諭による同時双方向型のオンライン授業を配信できるよう、校内体制を整備するとともに、学級担任が配信計画を作成した。児童は、同時双方向型のオンライン授業により学習し、学級担任は、児童がクラウド型の学習支援アプリを通して提出した学習課題を確認するとともに、児童の登校時に個別指導を行った。

○ 授業改善の推進

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を推進するため、ICTの効果的な活用に係る優れた実践事例について全職員で共有した。次に、校内研修において、文部科学省から示されている「1人1台端末・高速通信環境」がもたらす学びの変容イメージについて理解を深めるとともに、各教科、各単元(題材)においてどのようにすればICTを効果的に活用できるかについて教員間で協議した。また、プログラミング教育に係る研修において、実技研修や模擬授業を実施した。



【1人1台端末活用の日常化】

III 成果と課題

1 実践の成果

○ 情報教育・プログラミング教育の年間指導計画と情報活用能力系統表を作成し、計画に沿った教育活動を実践したことにより、児童の情報活用能力が高まるとともに、児童が係活動などで主体的にICTを活用することができた。

○ オンライン授業の試行及び授業配信を実施し、欠席の続いた児童がオンラインで授業に参加したことにより、学習に遅れが生じず、学級担任以外の教諭ともつながりができ、登校に向けた不安の解消につなげることができた。

2 今後の課題

● 授業におけるICTの活用方法及び頻度に差が見られることから、実践事例について全職員で共有し授業改善を推進するとともに、ICTの効果的な活用について研修を継続する必要がある。